

2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	耐震性能評価・改修小委員会		主 査 名：立道郁生 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 シェル空間構造運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：小河利行
設 置 期 間	2008 年 4 月 ～ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地震時の避難施設として期待されている学校体育館などに対して、現在、耐震診断、耐震改修が進められているが、現行の方法では、必ずしも体育館に表れる空間構造特有の動的挙動を反映していないことや、避難所としての機能阻害要因について十分検討されていないことなどがたびたび指摘されている。</p> <p>現状の診断法・改修法について調査を行い、それに基づきより合理的な耐震性能評価法、改修法のあり方について調査・研究する。これらの成果に基づき、空間構造物の特性を反映した総合的耐震性能評価法に関する研究成果を社会に還元することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2008 年度：空間構造の耐震性能評価・改修方法の現状と問題点を整理する ➤ 2009 年度：整理された項目を分担し、調査研究を実施する ➤ 2010 年度：「学校体育館の耐震診断・改修方法の課題と取り組み」と題したセミナーを開催する ➤ 2011 年度：これまでの成果を集約し、シェル・空間構造運営委員会にて企画中の、「(仮称) ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」の第 6 章「耐震診断と耐震改修」の原稿案を作成する。さらに、2011 年 3 月に発生した東日本大震災における、学校体育館など空間構造物の振動被害事例を収集しデータベースを作成する。 		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：立道郁生 (明星大学) 幹事：諸岡繁洋 (東海大学) 委員：石川 浩一郎 (福井大学)、石原 直 ((独)建築研究所)、大崎 純 (広島大学)、加藤史郎 (豊橋技術科学大学)、竹内 徹 (東京工業大学)、中澤祥二 (豊橋技術科学大学)、那花謙二 (巴コーポレーション)、藤原 淳 (太陽工業株式会社)、古川忠稔 (名古屋大学)、山下哲郎 (工学院大学)、松岡祐一 (新日鉄エンジニアリング)、松本幸大 (豊橋技術科学大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「耐震性能向上のための応答制御手法と減衰性能WG」</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 空間構造の耐震性能向上に適用可能な応答制御技術例の調査 ➤ 空間構造物の減衰性能に関するデータの収集と整理 		
2011 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	

<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. シェル・空間構造運営員会にて企画中の「(仮称) ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」の第6章「耐震診断と耐震改修」の原稿素案を作成した。 2. 2011年3月に発生した東日本大震災における, 学校体育館など空間構造物の振動被害事例を収集しデータベースを作成中である(3月末を目途)。 3. 2011年度の目標は達成したと考えられる。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「(仮称) ラチスシェル屋根構造設計指針・同解説」の第6章「耐震診断と耐震改修」の原稿素案に基づき、原稿とすること。 2. 非構造部材を含めた東日本大震災における被害調査のまとめと分析、および空間構造の被害データベースの充実 3. 2012年度建築学会パネルディスカッションの計画と準備およびその実行 4. このため、新規に「耐震性能評価小委員会(主査; 山下哲郎(工学院大学))」を設置し活動を継続する(設置期間; 2012~2013年度)